

経済指標ウォッチャー

米国GDP成長率(2021年1-3月期) 大幅に上昇

現金給付等を受けた個人消費の改善が、GDP押し上げに大きく寄与

GDP (国内総生産) とは？

Gross Domestic Productの略で、国内において一定期間内に新たに生産されたモノやサービスなどの合計金額。その国の経済力の目安に用いられる。

前年同期や前期と比べ、どのくらい増加(減少)したのかを見ることで、国内の経済成長を推定することが可能となる。GDPの増減率を%で表したものを『GDP成長率』と呼ぶ。

2021年第1四半期GDPは前期比年率6.4%増

米国商務省が4月29日に発表した、2021年1-3月期の実質GDP(国内総生産)成長率(季節調整済み、速報値)は、前期比年率6.4%増と大幅に上昇しました。事前予想の同6.7%増は下回ったものの、米国経済の力強い回復が確認される結果となりました(図表1)。

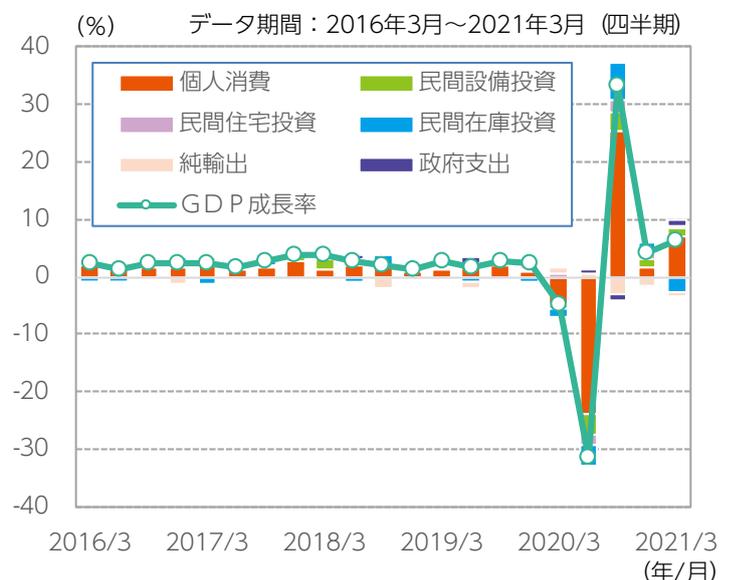
新型コロナウイルス感染拡大を受け、2020年4-6月期には同31.4%減まで落ち込みましたが、追加経済対策、FRB(米連邦準備制度理事会)による緩和的な金融政策やワクチン接種の進展等を受け、3期連続のプラス成長となりました。

個人消費を中心とした内需が大幅に上昇

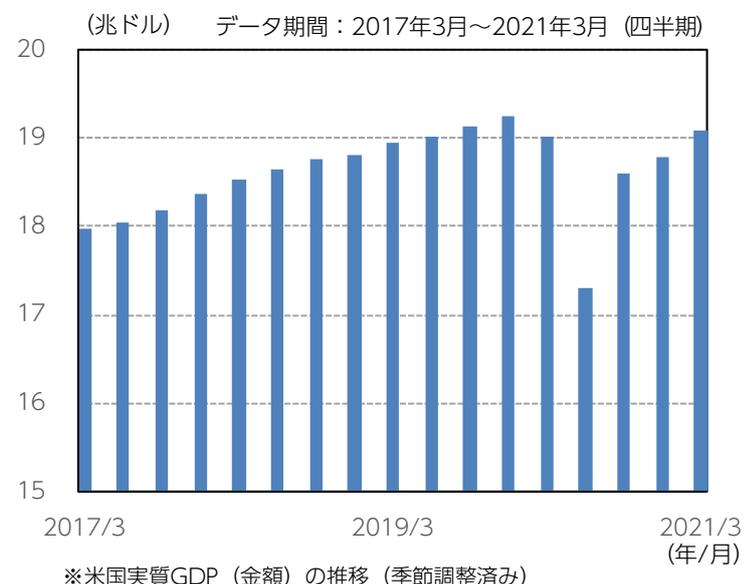
項目別寄与度では、バイデン政権の追加経済対策により、一人当たり最大で2,000ドルの現金が給付されたことから、個人消費が前期比年率10.7%増と大幅に上昇しました。個人消費は米国GDPの約7割を占めており、個人消費の拡大がGDP成長率の押し上げに大きく寄与しました。また、住宅投資(同10.8%増)、設備投資(同9.9%増)も大きく上昇しており、内需主導の成長となっています(図表1)。足元の実質GDP(金額)は2019年10-12月期の99%とコロナ前の水準までほぼ回復しています(図表2)。

ワクチン接種の進展等を受け、外出制限等の措置が徐々に解除され始めていることから、経済活動の正常化は今後も進むとみられます。個人消費を中心とした内需が主導し、米国経済の堅調な成長は続くものと考えられます。

図表1：実質GDP成長率の推移



図表2：実質GDP(金額)の推移



出所) 図表1、2はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>